

観測史上最大の総雨量**626**ミリを記録

未曾有の豪雨「避難勧告」発令

昭和15年の観測開始以来、最大の大雨が平戸市を襲いました

平年の8月1カ月降水量の2倍超の雨量を3日間で記録

豪雨の影響で、市内各地で土砂崩れや道路の冠水など甚大な被害が発生しました

九州北部を襲った豪雨

8月26日未明から30日早朝まで降り続いた猛烈な雨。秋雨前線が九州北部を中心に停滞し、南から湿った空気が流れ込み、線状降水帯が発生。福岡県、佐賀県、長崎県を中心とした九州北部地域が未曾有の豪雨に見まわられました。

早朝の「大雨特別警報」

8月28日午前5時50分、気象庁は福岡県、佐賀県、長崎県の市町村

に対して、これまでに経験したことのないような大雨となる可能性があるため「大雨特別警報」を発表。

「大雨特別警報」は、直ちに命を守るために最善を尽くす必要がある警戒レベル5に相当。特に土砂災害警戒区域や浸水想定区域などでは、土砂崩れや浸水による何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高くなることを示します。

平戸市では「避難勧告」発令

「大雨特別警報」の発令を受けて、平戸市では同日午前6時15分、市内全域に警戒レベル4に相当する「避難勧告」を発令。速やかに避難を開始するか、避難場所への避難が困難な場合、近くの安全な場所に避難するか、屋内の高いところに避難するよう呼びかけました。

市内各地で甚大な被害が発生

市内各地で豪雨の影響による、けが崩れ、道路の冠水や床上床下浸水などの被害が発生しました。幸い、人的被害はありませんでしたが、米などの農作物などに甚大な影響を及ぼしました。

川内地区の国道383号周辺は、豪雨の影響で溢れた水が道路に流れ込み、長時間にわたり通行止めとなりました。



1時間に110mmの雨

記録的な大雨が 早朝の平戸を直撃

平戸市内の被害状況

8月30日時点

災害名	件数
床上浸水	6
床下浸水	11
田（流失）	2
畑（流失）	1
学 校	1
道 路	42
河 川	19
港 湾	1
がけ崩れ	17
被害船舶	2

※現在調査中の被害については、含まれていないものもあります。



1_市道川内下中野線が冠水し車両に被害（中野大久保町）／
2_紙漉川の石積崩壊（山中町）／3_市道津吉・大志々伎線の
法面崩壊（無代寺町）／4_市道北部海岸線の法面崩壊（田
平町福崎免）／5_市道御崎浦線の法面崩壊（生月町御崎）／
6_市道白崎線の法面崩壊（大島村前平）／7_中野中学校敷
地のがけ崩れ（中野大久保町）／8_川内新田一帯の冠水（中
野大久保町）／9_猪渡谷川の増水（猪渡谷町）／10_主要地
方道平戸田平線が冠水し床下浸水（猪渡谷町）



いざというとき
災害から身を守るため

災害は、いつどこで発生するかわかりません。また、災害発生時には気が動転して普段できていたこともできなくなったりします。そのためにも、普段から災害に対しての心構えが必要です。

いつ起るかわからない災害

今回の災害では、早朝に市内全域に警戒レベル4の「避難勧告」が発令されました。このように、災害は深夜や早朝などを問わず発生する可能性があります。「自分は大丈夫だから」「自分の家は影響ないから」と安易に思わずに、テレビやラジオ、インターネットなどで災害情報などをこまめにチェックしてください。また、降雨が小康状態になってからでも、地盤がゆるんでいる山や川、急傾斜地などは土砂災害の危険性があります。「避難勧告」や「避難指示（緊急）」が解除されるまでは、むやみに近寄らないでください。

日ごろからの備え

今回のような豪雨の場合、道路が冠水して車での避難が困難になるケースがあります。また、避難経路が分断され、最寄りの避難所まで行けない可能性もあるため、さまざまな災害を想定し避難場所や避難経路を事前に把握する必要があります。そのために、平戸市では各地区にハザードマップを配布しています。ハザードマップには、想定される被害

区域によって色分けされ、災害の被害軽減や防災対策に活用されています。

一人一人が災害に対して向き合う

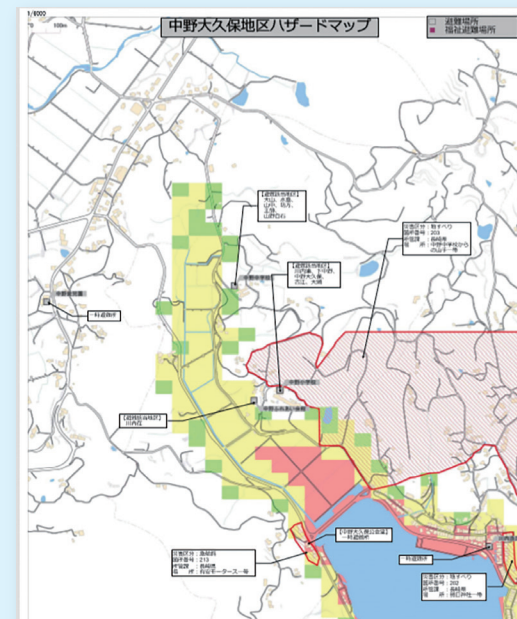
川内地区および中野久保地区では今回の被害を受けて、道路や農地を所管する平戸市や長崎県と意見交換を行いました。その際には、これまでの陳情や要望活動の経過などを説明し、地域住民が災害を未然に防ぐためには、どうしたらよいかなどを協議しました。

避難の際はまずは安全な場所へ

周囲が浸水している場合などは、避難所に避難するよりも、自宅の2階以上や付近のビルに避難の方が安全な場合もあります。周辺の状況を確認して避難してください。

災害時には、安全に避難するためにハザードマップなどを活用してどの避難所へどの道を使って避難するのか事前に確認しましょう。

ハザードマップ



自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図のことを「ハザードマップ」といいます。各地区の公民館や平戸市防災ホームページでも確認できます。

「想定外」の災害を防ぐために

近年の災害は、「想定外」といわれることが多くなっているため、災害の「想定内」の基準をもっと厳しく見直す必要があると思います。それは行政もそうですが、個人でもそうです。休耕地、雑木林、急な傾斜地、増水しやすい用水路など危険なところは地域が気づきやすい場合があります。自分の身は自分で守り、その次に地域のことは地域で守る。それでも解決出来ない問題については、行政と一緒に解決していくという仕組みをつくるのが大事だと思います。

地域と行政をつなぐ仕組みづくり

今回の川の氾濫や土砂崩れは、地形や、排水施設の問題などもあり、地域だけでは解決出来ない問題ではないかと思っています。今、細やかな地域づくりのために、「まちづくり協議会」という仕組みがあります。問題解決のために、地域も熟考し、具体的な案を提案する。行政も予算編成の段階から、地域と連携するというのが可能だと思います。地域と行政の風通しの良い関係性も必要だと実感しました。今後も地域の一人として、積極的に協力していきたいと思っています。



長崎県議会の西川副議長も道路冠水した現地を訪れ、地元住民と当時の被害状況などについて意見交換を行いました。

災害に強いまちづくり

近年の自然災害においては、全国各地で人的被害や建物被害などが多数報告されています。平戸市でも約100件の被害が確認されていますが、死者、行方不明者、負傷者などの人的被害はありませんでした。

しかし、川内地区の道路冠水や土砂崩れなどは復旧対策とともに未然に防ぐための対策も必要となります。平戸市では、市民の生命、財産を守るため、今後も災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。

有安オート専務

有安 勝也さん



当時の状況について

今回の豪雨で事務所や工場に水が流れ込んできたので、被害を最小限にするため高いところや棚の上に物を避難させました。しかし、一部の機械や部品、車などは水没して使えなくなりました。また、店舗前の道路や田んぼが水に浸かっている光景を見たときに、この状況をどうにかできないだろうかと感じました。



平戸市ホームページ・防災ホームページで災害情報の確認を

気象警報や土砂災害警戒情報など緊急の情報については、平戸市防災無線で放送されるほかにも、平戸市ホームページや平戸市防災ホームページでも確認することができます。また、平戸市防災ホームページでは、指定避難所一覧表やハザードマップ、防災に関する情報なども公開しています。

スマートフォンやタブレットにも対応していますので、災害が発生、また発生する可能性がある時にはご活用ください。

平戸市ホームページ



平戸市防災ホームページ

